



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第86号

発行日
令和3年12月1日

◇ 目 次 ◇

P-2 ミヤジマトンボ生息湿地清掃作業
P-3 厳島神社大鳥居鎮石洗い清め作業
P-4 自主観察会(4)島外調査 似島
P-6 PV 会員交流会広島市植物公園見学ツアー
P-9 紅葉谷公園補修・清掃作業

P-10 スカイ歩道整備・清掃作業
P-11 投稿記事
① 俳句投稿
② あせび歩道 モミ巨木倒壊
編集後記

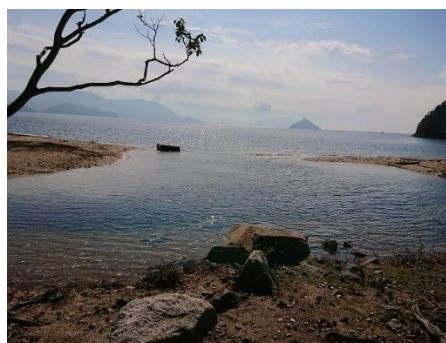
「 入浜河口部の砂浜の変化 」



(砂で塞がれた河口) R1. 6. 22



(大雨で砂が押し流される) R1. 7. 27



(満潮時の海水流入) R1. 10. 29



(池への海水流入) R3. 10. 7

平成 18 年 5 月に入浜海岸の自然調査を始めて、平成 19 年に海と池との水路を整備した後に定点観察、水路維持管理作業、海岸及び池周辺のゴミ拾い作業を実施してきました。

河口部の砂浜は、押し寄せる波により砂で塞がりますが、大雨が降ると河口を塞いでいた砂が押し流され、開いた河口から大潮の満潮時には池まで海水が流入します。

写真・文 末原 義秋

ミヤジマトンボ 生息湿地清掃作業

日時：8月7日（土）9:00～14:00

天候：晴れ

行事推進員：今田 森 上杉(裕)

参加者：河野 末原 兎谷 森 長村 福岡

村上(慎) 以上 7 名

広島森林管理署 5 名

広島大学宮島植物実験所 内田様



ミーティング

猛暑の中、参加者総勢 13 名で清掃活動および観察活動を行いました。

9:30 頃、森会員が主に森林管理署の方々に向けて室浜砲台の成り立ちなどを説明しました。

その後、簡単な自己紹介が行われ、本日の行動計画等ミーティングが末原会長より行われました。

10:00 前に出発し広大の実験所の境目あたりで広大の内田様から希少植物（ホンゴウソウ・ヒナノシャクジョウ）の説明があり、全員が地べたに顔を付けるようにして観察しました。

11:00 頃生息地に到着し末原会長と内田様からミヤジマトンボや生息地についてのレクチャーがありました。その後、生息地周りの清掃を 40 分程度行いかなりのごみを回収しました。木陰で昼食をとり、12:20 頃帰路につき 30 分程度海岸歩行、その後山道に入り 13:30 頃広大植物実験所に到着。

到着後に頂いた冷えたポカリで生き返りました。体感温度が 40 度以上あるような一日でしたが、無事に活動を終えることができ、参加者の協力のおかげだと思いました。



ホンゴウソウ



ヒナノシャクジョウ



往路（山を越えて）

（ 文：兎谷 写真：河野 ）



ミヤジマトンボ



清掃作業



集合写真



帰路(海岸)
その他環境学習協力

厳島神社大鳥居 鎮石洗い清め作業

日時：8月19日(木) 曇り

8月20日(金) 曇り

場所：厳島神社

参加者：8月19日 大林 河野 小林(勲) 佐藤 増田 元広 福岡

8月20日 猪谷 佐渡 末原 森
以上11名

大鳥居の修理に伴い、屋根の下にある笠木、島木の中から取り出した重石(鎮石)を元に収め直す前に、大鳥居が末永く守り伝えるようにとの願いを込めて、石を洗い清める作業が宮島町民の氏子たちによって行われ、宮島地区パークボランティアの会も末原会長のお世話で参加することになりました。

私は、8月20日午後2時からの参加で30分前に神社前に集合して、野坂宮司からの説明とお祓いを受けた後、社殿出口の西松原の洗い場に移動して、神社の方からビニール袋に入った石を渡されました。きれいに出来た竹筒から出る水で、一つ一つ丁寧に水洗いしました。私の石は、大きな石が一つと小さな石が17個ありました。

延べ2日間で約540人が参加し、石の数は計7万個・4トンになるそうです。参加者は町内の氏子の方、町内の事業所にお勤めの方で子どもさんを連れた親子連れが、たくさん参加されていました。

70年ぶりの大修復、一生に一度の貴重な体験をさせていただきました。洗い清められた“鎮石”は9月上旬に大鳥居の中へ収めました。

一日も早く大鳥居の修復が終わりますようお願いしながら宮島を後にしました。



(文：佐渡 写真：河野 末原)

自主観察会(4) 島外調査 似島

日 時：10月2日(土) 9:10～15:10

場 所：似島

天 候：晴れ

行事推進員：小林(み) 村上(光)

参加者：岩崎 金山 北野 河野 小林(勲)

小林(み) 佐渡 末原 兎谷 二神

穂井田 元広 森 横路 福岡 以上15名

本日は似島へ、島外調査となりました。
会員は宇品港栈橋に、午前9時10分集合で
15名の方の参加がありました。



小林(勲)観察部会長の説明を聞く会員



宇品港栈橋から似島行き9時30分のフェリー
一に乗船して、似島学園前栈橋に9時50分到着
しました。

似島学園前桟橋に到着すると、小林（み）会員から桟橋から右側に見える似島学園の説明を聞きながら、似島学園の方向へ進みました。

島内の東側の沿道を歩くと、紫色の花びらが小さなツユクサを観察しました。ツユクサ科ツユクサは、草地や道端でよく見られ、身近にある草花だが花は早朝に咲き午後には、しぼむため葉だけのことが多いようです。

花は花弁が3枚だが青く大きい2枚が目立ち1枚は白くて小さい、花はおしべがよく目立つ。小さな白い花びらに付いていた、白い蛾でギンツバメといいます。会員たちもきれいな白い蛾を見ながら、一呼吸入れました。

沿道を歩くと、外来種のセイタカアワダチソウを確認しました。キク科の北アメリカが原産で、花の穂は大きく全体的に三角状になります。群生していると、この花の様子が泡立つように目立つことからこの名前が付けられた由来です。

平和養老館の前に慰霊碑があり、会員で説明を聞きました。この辺りは、戦時中、第二検疫所が設置されていた場所であり、旧宇品線のプラットホームとトロッキレールのモニュメントがありました。



宇品線プラットホーム

似島臨海公園の緑地で休憩して、少し歩くとキャンプ場がありました。

さらに進むと、小中一貫校の似島小学校、似島中学校がありました。令和3年4月に開館した似島平和資料館の前で対岸の絵下山を眺めながら昼食にしました。



絵下山・峠島を見ながら昼食

昔は紙の材料に使われた、カミヤツデを観察しながら、先へ進むことにしました。

カミヤツデはウコギ科の植物で、大きな葉は50cm以上になることもあります。

途中イヌビワの実を、会員で味わいながら実食しました。



イヌビワ



似島箕浦鼻から宮島を望む

似島港に近づくと、サイクリングで、周遊されている方を見かけるようになりました。

似島港から末原会長と森会員が北回り 5Km の道のりを歩いて、似島学園前栈橋に向かわれました。



似島港栈橋 集合写真を撮影するため集合

会員は似島港からフェリーに乗り、14 時 50 分に似島学園前栈橋で、末原会長と森会員と合流しました。15 時 10 分に宇品港栈橋に着き解散しました。



集合写真

本日植物と歴史の説明していただいた会員の皆様ありがとうございました。

(文 : 福岡、写真 : 河野)

参考文献

1. 似島めぐり マップ
2. 南区散策ガイドみなみ区に行く似島・金輪島マップ
3. 散歩で見かける草花・雑草図鑑
4. 散歩で見かける街路樹・公園樹庭木図

植物公園見学ツアー

日 時 : 10 月 16 日 (土) 9:00~14:45

天候 : 曇り

行事推進員 : 二神

参加者 : 岩崎 大西 大林 金山 北野 河野
小林 (颯) 小林 (み) 佐渡 末原
兎谷 二神 穂井田 村上 (光)
山本 (昌) 横路 呼坂 種本
以上 18 名

去年はコロナの影響で中止となった会員交流会ですが、今年は無事広島市植物公園にて開催されました。

朝 10 時に広島市植物公園に集まった会員は 18 名。午前中は広島市植物公園のガイドボランティアの方による説明を聞きながらの園内見学です。



ガイドボランティア紹介

大温室では、日本一のオーストラリアバオバブが移植された際の苦労話や、今年は 30 個近い花が咲いたこと等々聞くことができました。

PV 会員交流会:広島市



バオバブ

又、（以前私が広島市植物公園を訪れた時にはなかった）空中デッキというものがあり、背の高い木を下から見上げるだけでなく上の方についた実や花を近くで見ることができました。熱帯スイレン温室ではオオオニバス、熱帯性スイレン、食虫植物等の話を聞き、フクシア温室では多くの種類のきれいなフクシアを見ることができました。



フクシア



ベコニア温室



ベコニア雌花・雄花



オオオニバス

昼食前には、急遽バタフライガーデンにアサギマダラを見に行くことになりました。毎年この時期にたくさんのアサギマダラが飛来しているそうです。朝よりは少ないと言われていましたが20頭以上はいたのではないのでしょうか。一度にこれほどの数のチョウを見たことがなかった私にとっては大変感動的でした。

午後からは植物公園職員の方による広島市植物公園の概要についての講義が行われまし

た。広島市植物公園の歴史を知るよい機会になったと思います。



説明会

講義で少し眠くなった後は外に出てネイチャーゲームが行われました。ネイチャーゲームって何？と思いましたが、この日行われたのは「私は誰（何）でしょうゲーム」「カメレオンゲーム」「カモフラージュゲーム」の3つです。ここでこれらのゲームについて説明をしていると紙面が無くなってしまいそうなのでしませんが、日頃は小学生と一緒にやっているそうです。小学生に比べると頭は固くなり、目も悪くなり、注意力も散漫となりつつある大人にとっては意外と大変なゲームだったかもしれません。ゲームの優勝者には景品（クリスマスの飾り付けに良さそうな大きな松ぼっくり）まで用意していただきました。優勝者にといいながら希望者全員にいただくことができたので、優勝していない私もいただいて帰ることができました。



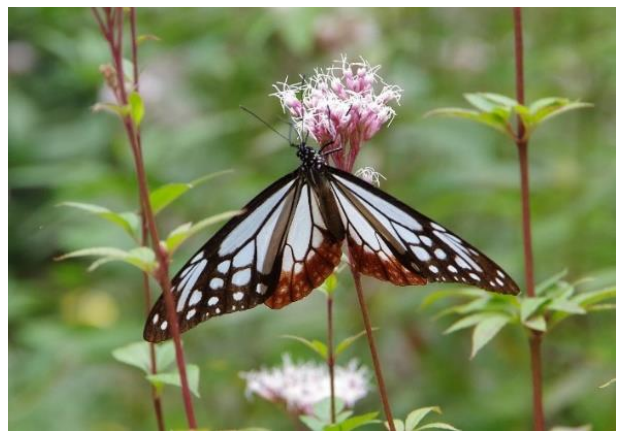
（前日までの天気予報では雨だったのに）最後まで雨に降られることなく、ゲガ人もでず、楽しい時間を過ごすことができました。

当日の運営にあたってください山本会員、ネイチャーゲームを担当してください北野会員、金山会員、協力いただいた広島市植物公園職員の皆さん、ガイドボランティアの皆さんありがとうございました！



（ 文 種本 、写真 河野 ）

「アサギマダラとフジバカマ」



10月16日(土)開催の会員交流会で行った広島市植物公園で撮った花の蜜を吸うアサギマダラです。20～30頭のアサギマダラがコバノフジバカマの蜜を求めて集まっていました。春に中国大陸や台湾から日本に北上し、秋に南下する渡りの蝶で有名です。

（ 写真、文 河野 進 ）

紅葉谷公園補修・清掃作業

日 時：10月21日（木）9:00～12:00

天候：晴れ

場 所：紅葉谷公園

行事推進員：大林 三戸

参加者：岩崎 大林 河野 末原 兎谷
穂井田 増田 三戸 森 福岡
以上 10 名

前の週まで暖かったり暑かったりの気候が一転、当日は急に寒くなりました。

作業は『宮島さくら・もみじの会』のみなさんと協働作業で紅葉谷公園の補修と清掃を行いました。

山村茶屋前の広場で宮島さくら・もみじの会会長、宮島地区パークボランティアの会会長、樹木医の先生から挨拶があり、集合写真を撮って作業を開始した。

『宮島さくら・もみじの会』のみなさんは樹木の周りに腐葉土を施し枯れ枝の撤去等されました。一方、我々の会は公園山側の側溝の土砂を取り除き、その土砂で道路の窪地を整地しました。側溝には石あり枯れ枝あり根も張っていて、寒いどころか汗をかきながらの大変な作業になりました。作業後の綺麗になった溝を見ると「やったな！」という達成感と心地よい疲労感があり、12時少し前には無事終了して山村茶屋前で解散しました。

私は自身の体力と相談しながら休み休み頑張ったのですが、慣れない作業で足腰が痛み、平素の運動不足を痛感しました。



開会挨拶



樹木医説明



側溝整備



こんな大きな石も

（ 文：三戸 写真：河野 ）

スカイ歩道整備・清掃作業

日 時：11月6日（土）9:00～12:00

場 所：紅葉谷～包ヶ浦自然歩道

行事推進員： 兎谷 三次

参加者：岩崎 河野 小林(颯) 佐藤 末原
兎谷 穂井田 舛田 三戸 村上(光)
森 上杉(裕) 上杉(幸) 長村 福岡
村上(慎) 以上 16 名

環境省広島事務所：大高下 AR



当日の天気予報は「晴れ」でしたが、開始から終了まで暑くもなく寒くもなく薄曇りの状態が続き、作業を行うには最適な気温でした。

朝9時、16名（意外と多い？）の会員が宮島栈橋前広場に集合しました。このスカイ歩道整備・清掃は環境整備部会活動の中でも体力を消耗しやすいため、参加人数が多いことは一人一人の負担が減るため、非常にありがたいです。

1人1道具（スコップ、鍬、熊手等）を持ち紅葉谷公園へ。スカイ歩道はロープウエー紅葉谷駅無料送迎バス乗場から、栈橋方向へ数十m歩いた所の紅葉谷側入口からスタート。そこから200m～500mの範囲が活動エリアです。

この区間の歩道は段差がありコンクリートの側溝もあります。側溝が塞がれた状態で水が溢れると歩道の土を削り、歩道が荒れ、歩きにくくなるため、側溝の清掃と歩道面の整地が主な作業となります。

さすがに側溝の中の堆積物を全て運搬、処分することはできないため、一旦雨が降っても流れ出さない場所へ運び、周りの土で歩道のデコボコをならす作業をしました。スタートから2時間半あまり、利用者に安全で気持ちよく歩いていただけるよう汗を流した今日の活動は、こうして無事終了することができました。

宮島はこれからが紅葉シーズン。コロナが収束し前のように多くの観光客で宮島が賑わいを取り戻すよう、そして私達が整備清掃したスカイ歩道にも足を向けていただきたいと思います。



（ 文：村上（慎） 写真：河野 ）

***** 投稿 *****

① 俳句投稿 : 大林 寛

去り難き汽水池

ミヤジマトンボかな



2021 年 10 月 21 日撮影

② あせび歩道モミ巨木 倒壊

岩崎 義一

10 月 21 日の紅葉谷公園補修の行事の後、大元公園へあせび歩道を散策に通った折、途中の木比屋谷にあるモミの巨木が倒壊していました。ここは例年の樹木名板維持管理活動でお馴染みの道、このモミにもかつて名板が取り付けられていました。およそ樹高 25 メートル、幹回り 3.5m ほどあり、歩道の奥の谷の方に倒れこんでいました。何時、どういうきっかけで倒れたかの情報は得られていません。(2020 年 6 月に倒木の通報があり対応したとの事) 右の写真は 2018 年 11 月の樹木名板の活動時に撮影していたもの。もうこの時点では枯れていて何時倒れてもおかしくないと気になり、記録したものです。2017 年の写真は該当の樹木と思われますが、この時点では枯れていなかったことになります。コロナ禍で昨年一昨年と約 2 年この活動ができなくて、私も久しぶりに通りがかり、その間の出来事でした。倒れた時はすさまじい何とも痛ましい悲鳴をあげたことでしょう。



2021 年 10 月 21 日撮影



2018 年 11 月 3 日撮影



2017 年 11 月 4 日撮影

モミはマツ科の常緑針葉樹であり、スギやヒノキと比べると寿命は短く、天然記念物級のモミでも 300 年程度、一般には 100~150 年といわれています。

モミの寿命について参考 HP もみ | 新木偏百樹

+<http://wood100.net/newmoku90.html>

◇ 編集後記 ◇

2020 東京オリンピックとコロナ 5 波や感染者数激減。皆様の協力でみせん 86 号を配信できました。感謝です。(麻生)

瀬戸内海国立公園
宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所
(〒730-0012)
広島市中区上八丁堀 6 番 30 号
広島合同庁舎 3 号館 1 階
TEL082-223-7450、FAX082-211-0455